

# 名馬・鎌倉号の背に乗って

エッセイスト 外山 務

「鎌倉は藤崎氏の駿馬なり、奇相骨太く、

其の色は漆黒、嘶く声雷響の如きは……」

そんな謳い文句が彫られた碑文がある……

ときは明治の頃、富里の獅子穴に「鎌倉」という馬がいた。

その馬は鎌倉に住む伯樂によって、奥州七戸の外国人に売却され

巡り巡って、富里の藤崎忠貞氏の目にとまったのが、人と馬との縁の始まり。

前の持ち主から、鎌倉と名付けるように言い渡され、

藤崎氏もまた、その言いつけを守った。

文明開花の風と共に、競馬が盛んなその当時、

明治11年の春、試みに鎌倉を横浜の根岸競馬場に出走させた。

そこで、突風の如く走った鎌倉は、同年11月、根岸競馬のパトロン賞で、

単走勝利という快挙をなすとげる。

勝ち目のないと悟った、すべての馬の出走拒否により、

鎌倉が、一頭悠々と馬場を走って1着という、

その強さを示す、エピソードの一つでもある。

また、御前競馬においても漆黒の馬体は人々から賞賛され

陛下より花瓶を賜わり、

それは今でも、代々当家に所蔵されているという。

すべてのレースに好成績を残した鎌倉

これを妬みに思った輩に、密かに、飼葉桶に毒を盛られてしまい

医者招いて治療をするが、わずか7歳にしてこの世を去った。

鎌倉の活躍と死を憐れみ、藤崎忠貞氏により

名馬鎌倉号の碑が、現在でも久能の地にひっそりと建っている……

幻の名馬の、幻の言い伝えとして静かに語り継がれている……

「風の優駿外伝として」



# とみさと

広報

1999  
平成11年

11  
No.447

富里の歴史シリーズ第2弾

特集

## 風の優駿

（野馬から競走馬に至る歴史の風）

あふ・続々人は縁の鳥吹と共に

